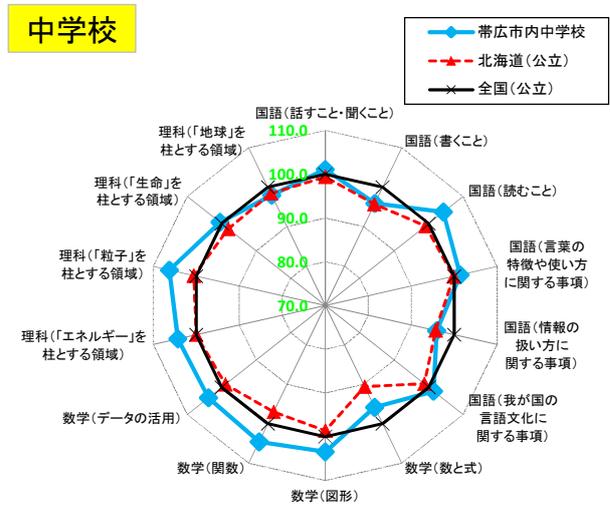
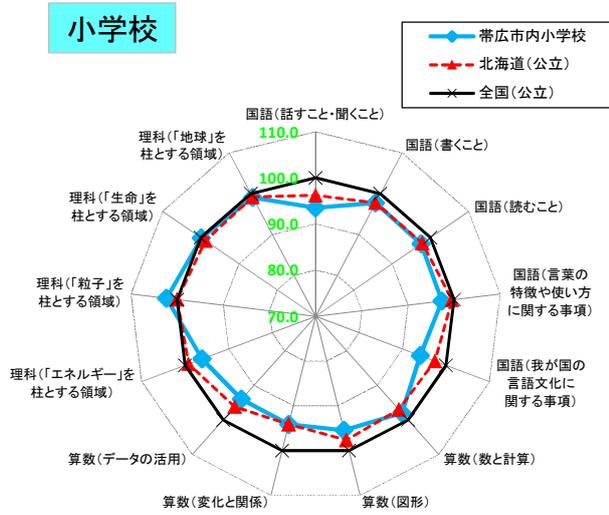


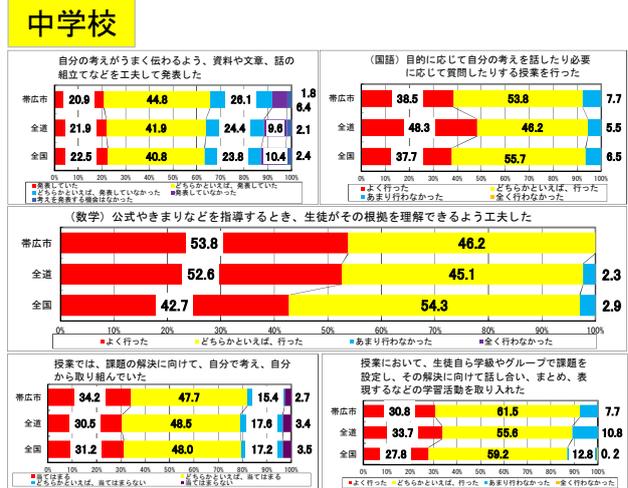
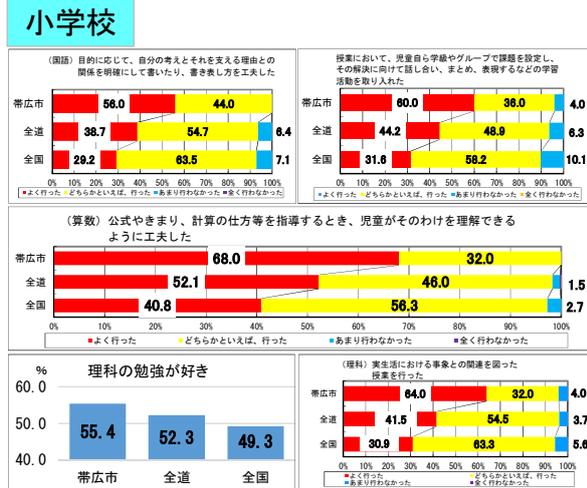
■帯広市内の状況及び学力向上策（小学校数:25校、児童数:978人）（中学校数:13校、生徒数:872人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域において全道の平均正答率と同じになったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、「数と計算」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象と関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと肯定的な回答をした生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、全ての領域において、全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫したことにより、全ての領域において、全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現などの学習活動を取り入れたことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、全ての領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

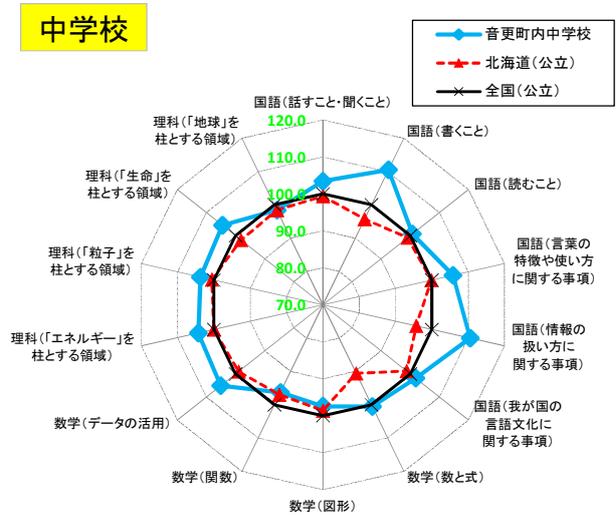
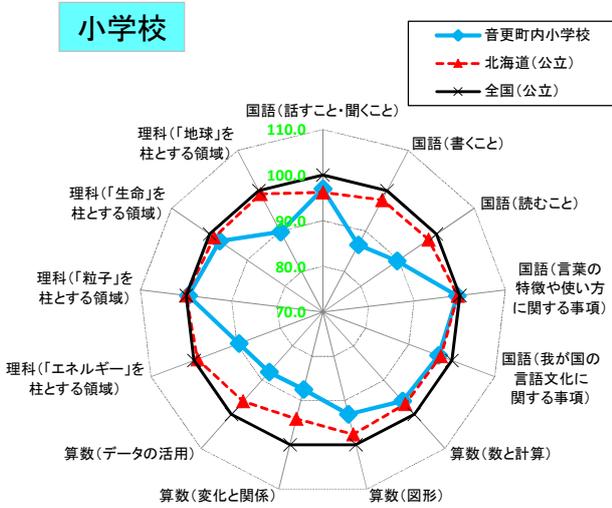
【帯広市の学力向上策】

- ◎ 帯広市学力向上推進プロジェクトチームによる各種調査結果等の分析及び授業改善通信の発行
- ◎ 中学校区を基本とした「エリア・ファミリー」における相互参観や合同研修会等の実施
- ◎ 教職員を対象とした長期休業研修における1人1台端末に係る研修講座等の開催及び教職員の資質能力の向上、授業改善の推進
- ◎ 「重点化」と「共有化」をキーワードとした学力向上に係る1校1実践の取組

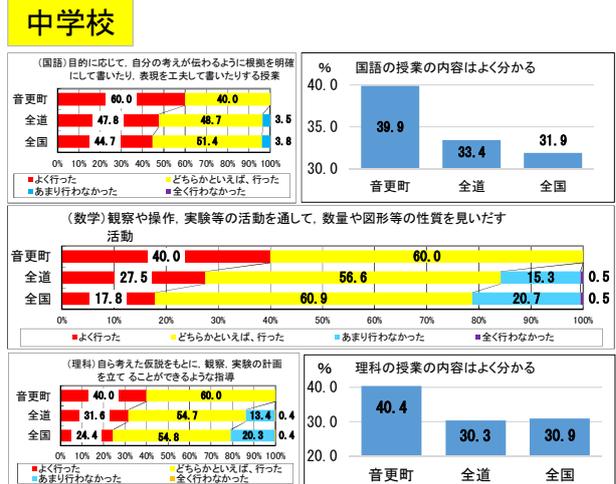
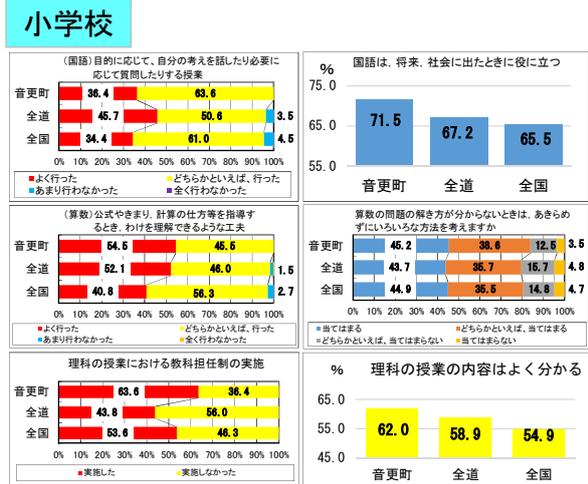
■音更町内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:380人）（中学校数:5校、生徒数:383人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、言葉の特徴や使い方に関する事項で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫する授業を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えたと回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「数と計算」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、多くの学校で教科担任制を実施し、専門性の高い指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かるという回答する生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、「数と式」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「地球」を柱とする領域以外の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

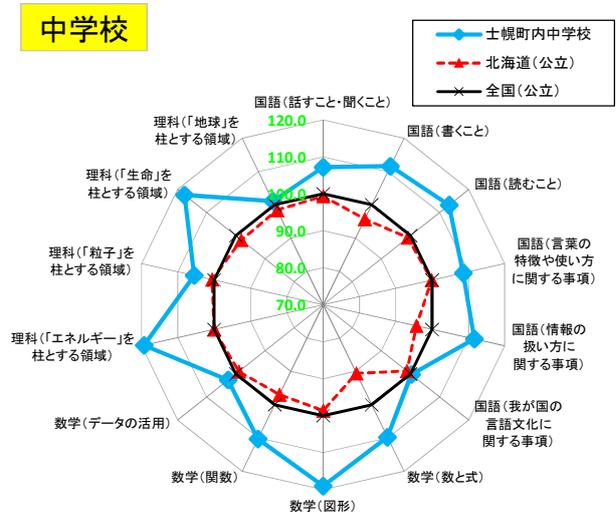
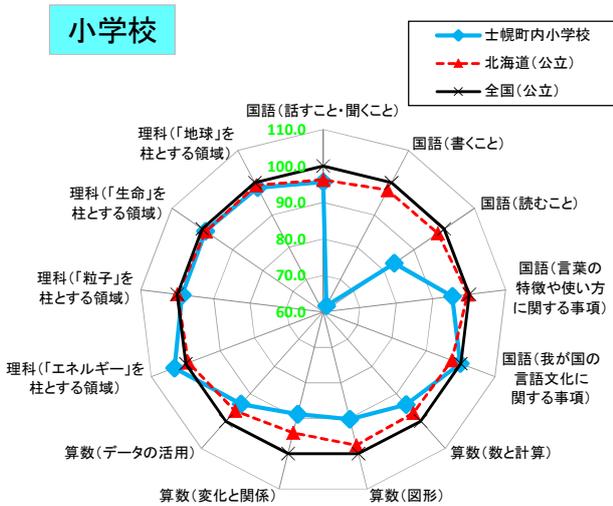
【音更町の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 授業におけるICTの効果的な活用に向けた音更町教育研究所主催によるGIGA端末活用研修会の実施

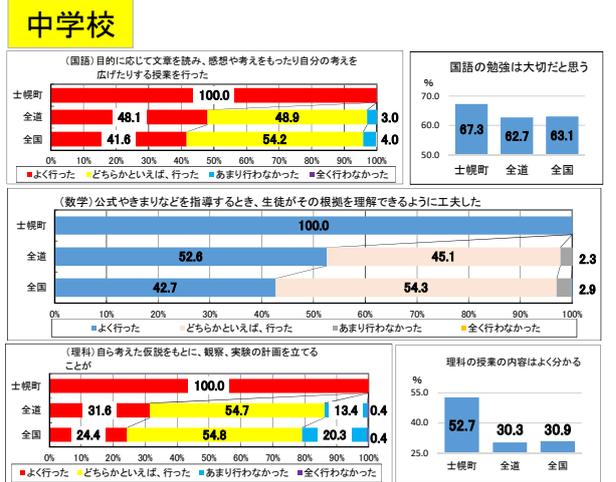
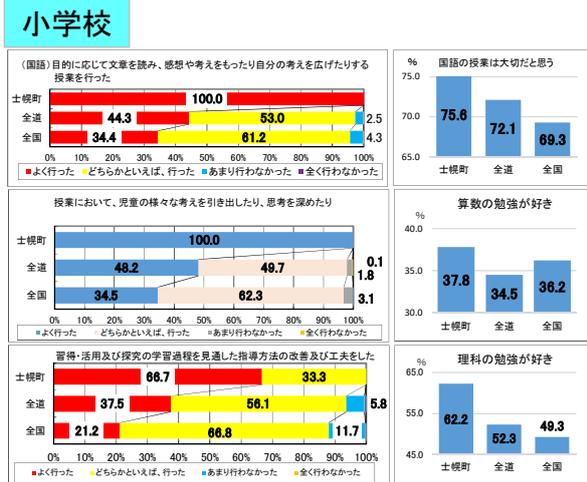
■士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:45人）（中学校数:1校、生徒数:54人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを上げたりする授業を行ったことにより、国語の授業は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような授業を行ったことにより、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを上げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切と思うと回答した生徒の割合が全国の割合を上回るとともに、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりを指導する際に、理由や考えを説明し合う活動を行うなど、学習指導の工夫を重ねるとともに、知識・技能の活用を適切に図るための授業改善に取り組んだことにより、平均正答率が全国平均を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容がよく分かる割合が全国の割合を上回るとともに、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【士幌町の学力向上策】

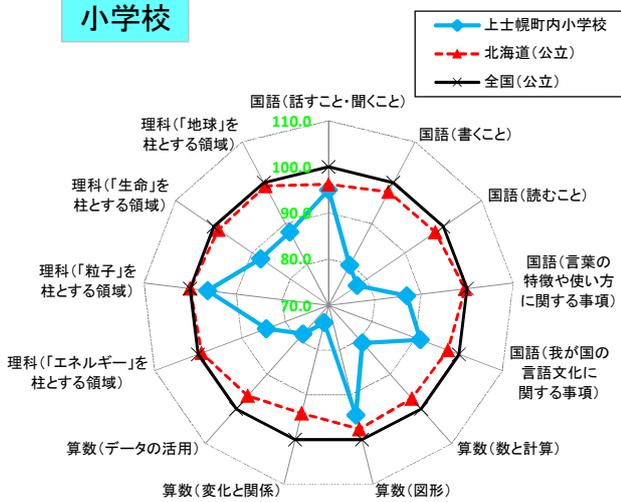
- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく各校の課題を明確にした組織的な検証改善サイクルの確立
- ◎ 小学校における教科担任制や乗り入れ授業の実施及び小・中学校合同授業改善研修会や授業参観の実施
- ◎ 児童・生徒の学習状況の適切な把握及び個別最適な学びの実現に向けた、1人1台端末の活用

■上士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:232人）（中学校数:1校、生徒数:109人）

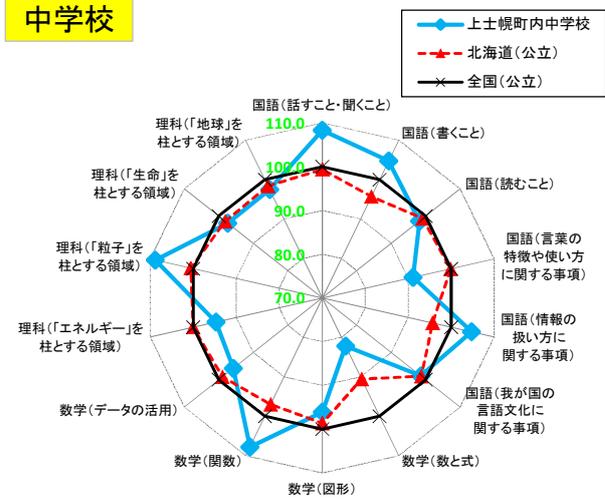
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

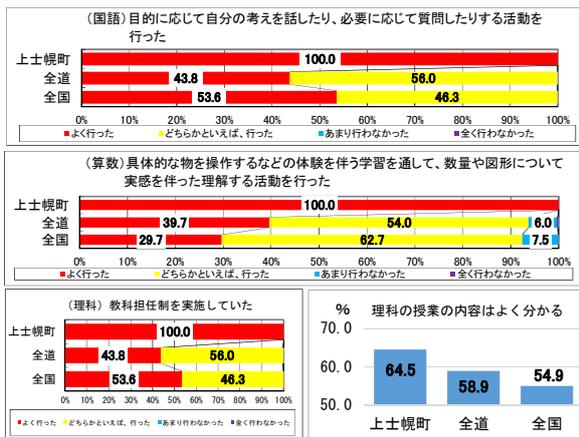


中学校

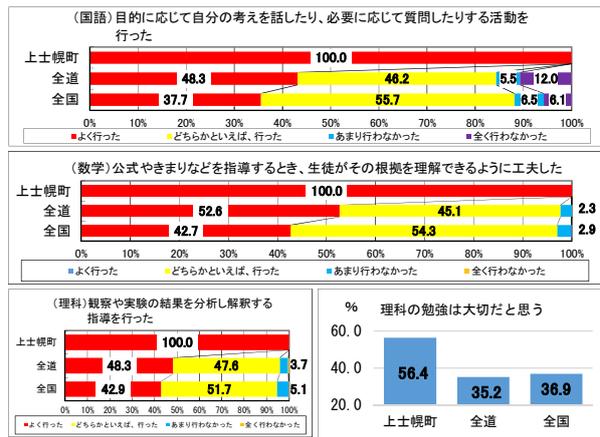


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解を行ったことにより、「図形」の領域で全道の平均正答率に近付いたと考えられる。

理科の授業において、教科担任制を実施したことにより、理科の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道平均を上回るとともに、知識・技能の領域において全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域及び「情報の扱いに関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫した授業を行ったことにより、「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する活動を行ったことにより、理科の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道平均を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

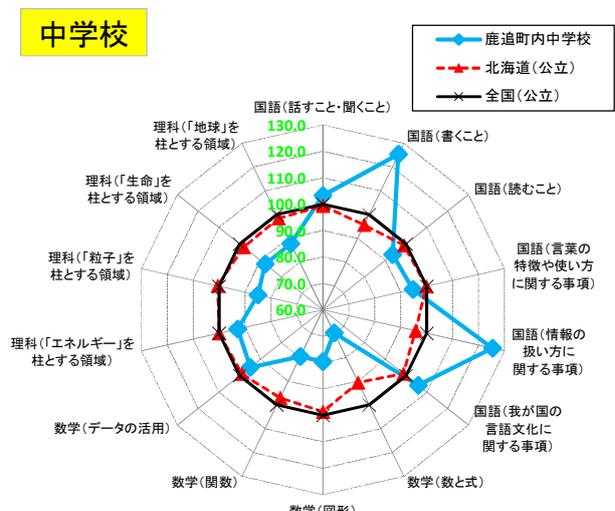
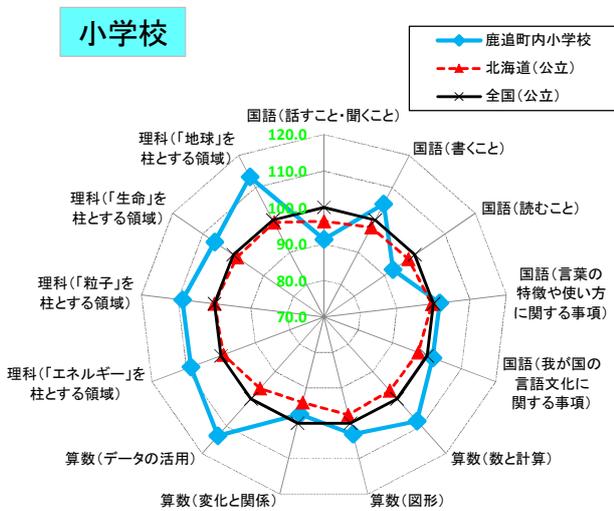
【上士幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善及び各教科等における言語活動の充実
- ◎ 情報活用能力を高めるとともに学びを深めるためのICT端末の利活用
- ◎ こども園から小・中学校までの目指す子ども像を共有することによる一貫した教育の推進
- ◎ 小・中学校と家庭の連携による規則正しい生活リズムと学習規律の徹底

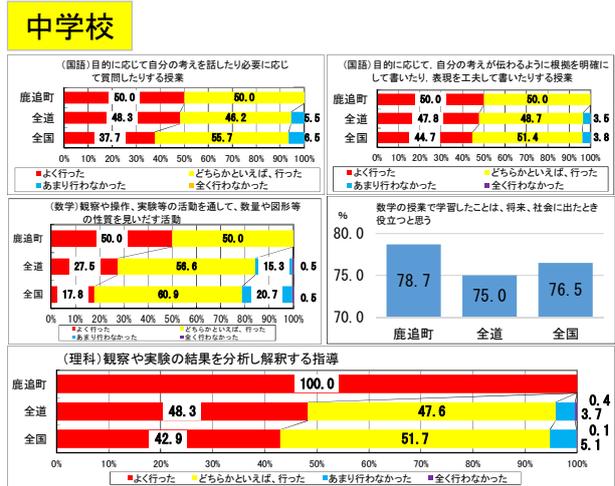
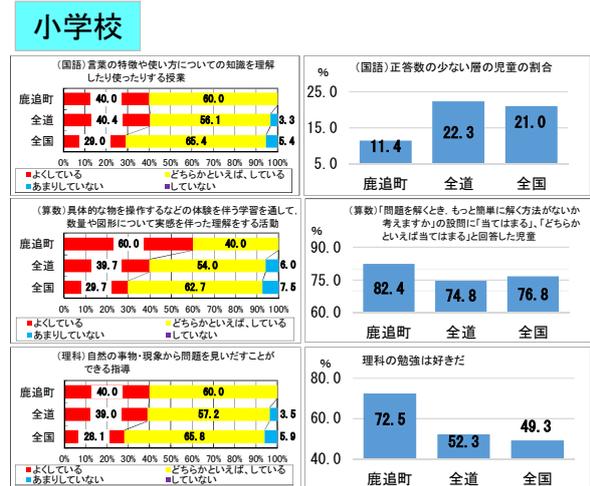
■ 鹿追町内の状況及び学力向上策 (小学校数:5校、児童数:53人) (中学校数:2校、生徒数:48人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、基礎・基本の定着が図られ、正答数の少ない層の児童の割合が全国平均を大きく下回るとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行うことにより、算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「数と式」「図形」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の勉強は好きだと回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする活動や、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする活動を位置付けた授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと肯定的な回答をした生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回る設問があったと考えられる。

【鹿追町の学力向上策】

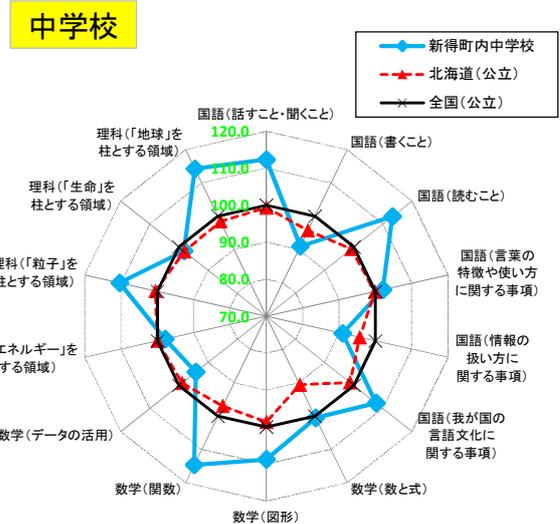
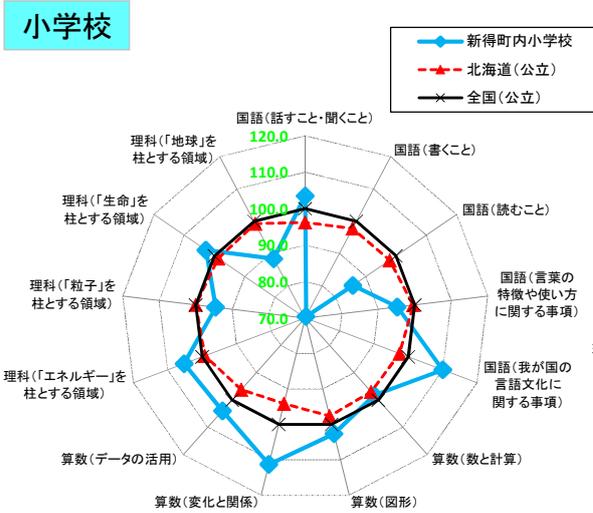
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 小学校算数科における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、日常の授業と家庭学習との連動
- ◎ 1人1台端末と学習アプリを活用した基礎・基本の定着

■新得町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:35人）（中学校数:3校、生徒数:26人）

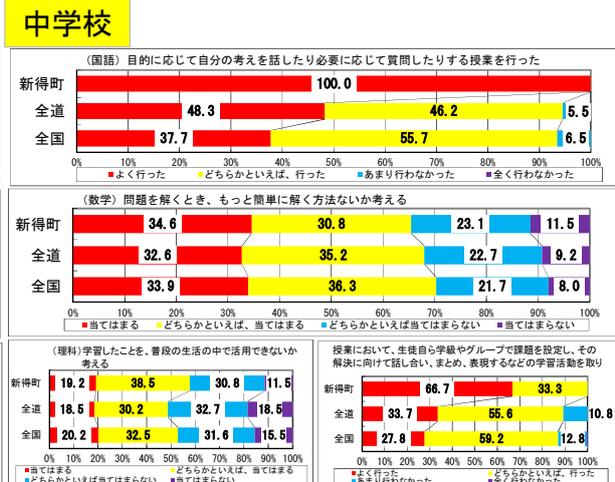
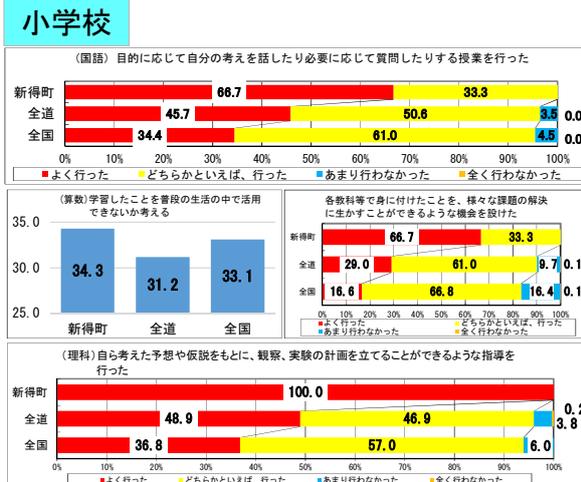
※新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータは、今回の調査結果に含めていません。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域と「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」と肯定的に回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、「エネルギー」「生命」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫したことにより、「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法ないか考える」と回答した生徒の割合が全国の割合を上回るとともに「数と式」「関数」「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると肯定的な回答をした生徒の割合が全国を上回るとともに「粒子」「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【新得町の学力向上策】

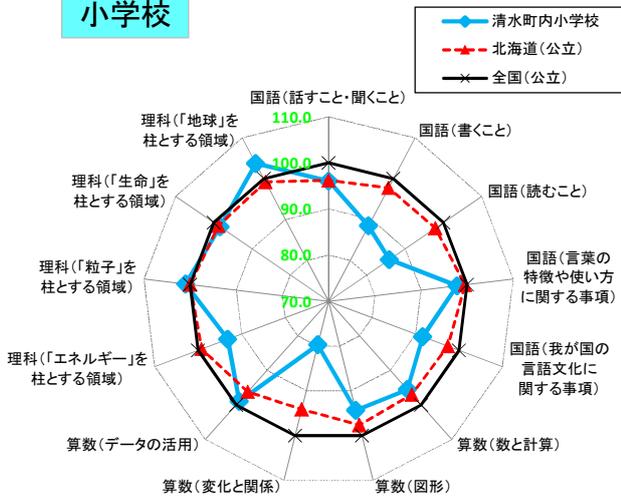
- ◎ 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた義務教育9年間を見通した教育及び地域の特色を生かした教育の推進
- ◎ 町費負担教員の配置による少人数学級の実施及び複式授業の効率的な運営等の学習指導の体制の充実
- ◎ ICTを活用した学習活動の推進及び授業におけるICT活用に係る研修会を通じた教員の指導力向上に向けた取組の推進

■清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:77人）（中学校数:2校、生徒数:76人）

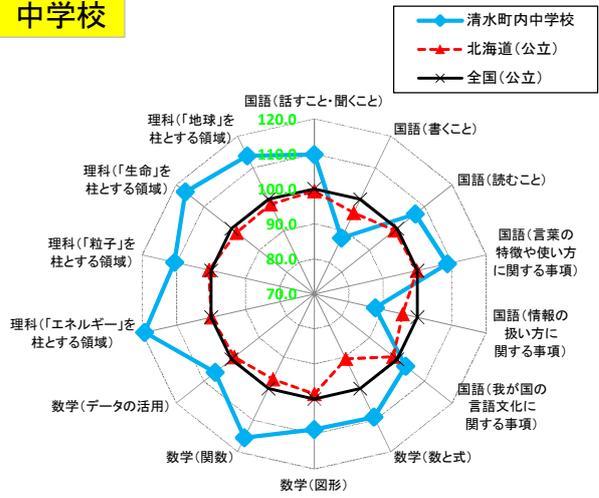
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

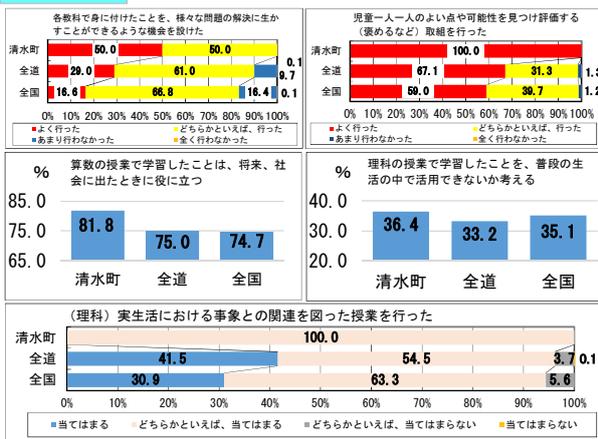


中学校

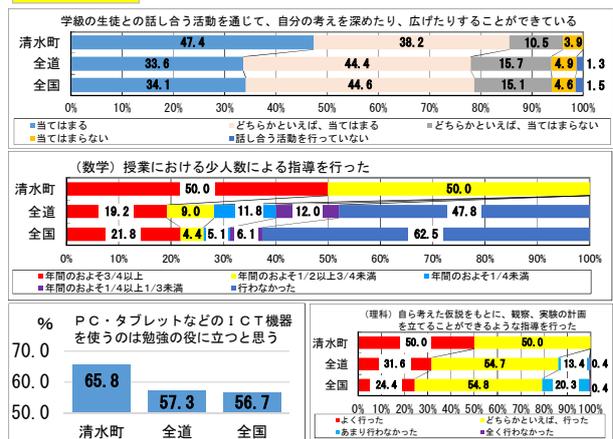


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

日常の授業において、各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設けるなど学びの意義を深めるとともに、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ、適切に評価を行ったことにより、算数の授業で勉強したことは、将来、社会の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「粒子」「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業以外においても、言語活動に取り組んだことにより、学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、全教科において「思考・判断・表現」の観点で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、少人数指導の充実や、各教科におけるICTの効果的な活用など、基礎的、基本的な学力の定着に向けた取組を推進したことにより、全教科において「知識・技能」の観点で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、学習過程に基づき、生徒を主体とした探究的な活動を行ったことにより、全領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

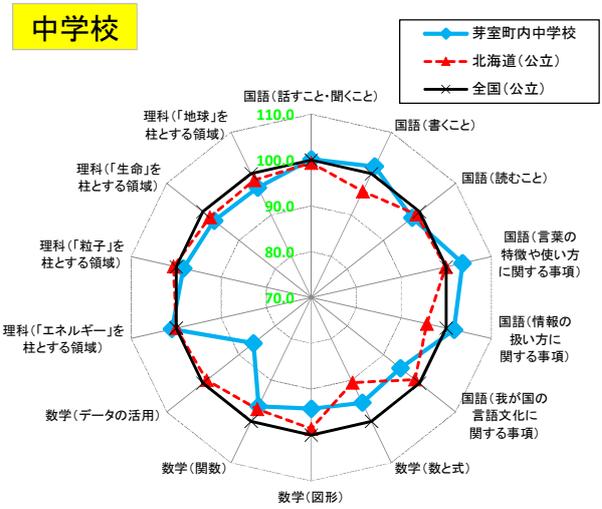
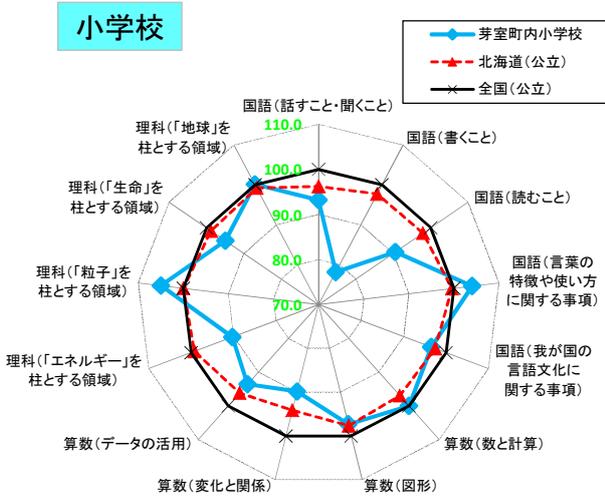
【清水町の学力向上策】

- ◎ 小学校国語科における、指導事項の系統性を見据え、言語活動の充実を図った授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小・中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 児童・生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための1人1台端末の効果的な活用

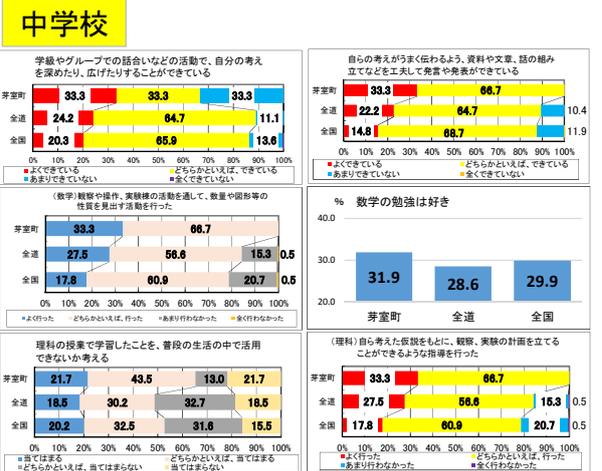
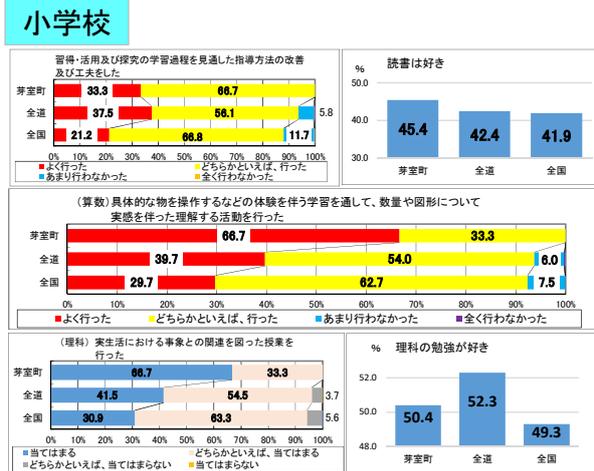
■芽室町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：141人）（中学校数：3校、生徒数：188人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
<p>国語の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行うとともに、児童の国語の学習に対する関心・意欲を高めるため、読書に親しむことのできる環境を設定したことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>
<p>算数の授業において、少人数指導や習熟度に応じた指導に組織的に取り組むとともに、具体物を操作するなど、数量や図形について実感を伴う学習活動が積み重ねられていることにより、「数と計算」の領域において全国の平均正答率と同程度となったと考えられる。</p>
<p>理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業が好きと回答した児童の割合が全国の割合を上回るとともに、「粒子」、「地球」を柱とする領域において全国の平均正答率とほぼ同程度となったと考えられる。</p>

中学校
<p>国語の授業において、他者と協働し自分の考えを深めたり、広げたりする言語活動や資料や文章、話の組立などを工夫して発表する機会が積み重ねられていることにより、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域において全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>
<p>数学の授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めるような発問や指導の工夫をしたり、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見出したりする活動を行ったことにより、数学の授業が好きと回答した生徒の割合が全国の割合を上回ったと考えられる。</p>
<p>理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てる指導の工夫を行ったことにより、理科の学習と日常生活における事象を関連付け、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率と同程度となったと考えられる。</p>

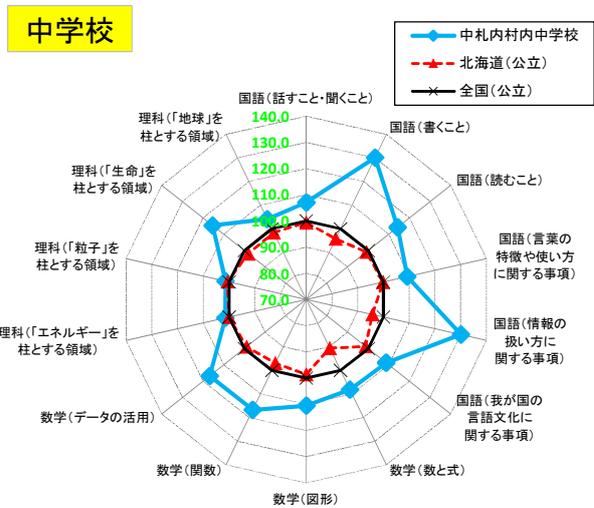
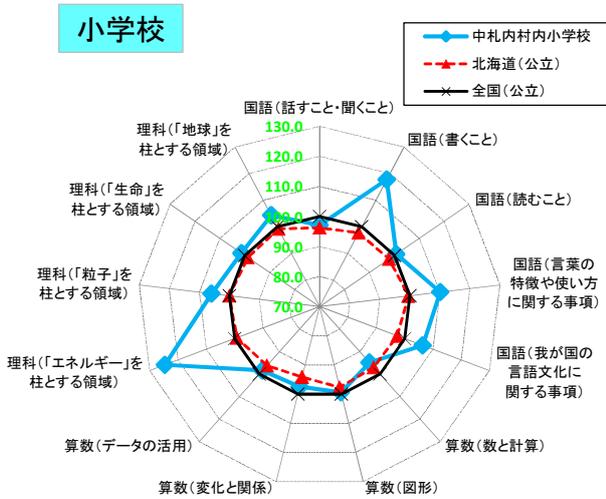
【芽室町の学力向上策】

- ◎ 授業改善推進チーム活用事業による小学校の授業改善及び言語活動の充実に向けた授業改善の推進
- ◎ 中1ギャップ問題未然防止事業による学習・生活両面における小中連携の推進
- ◎ AIドリルを活用した基礎・基本の定着

■中札内村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:35人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

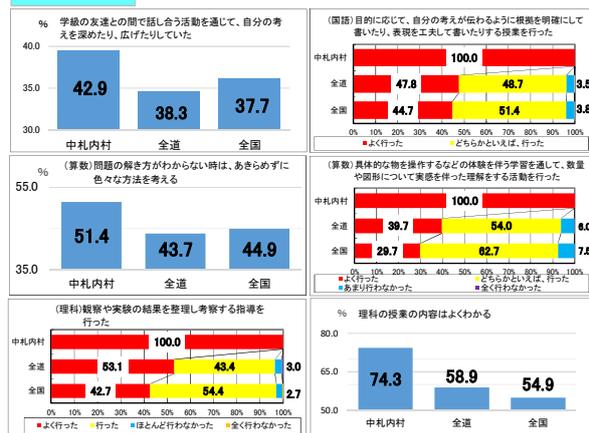
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

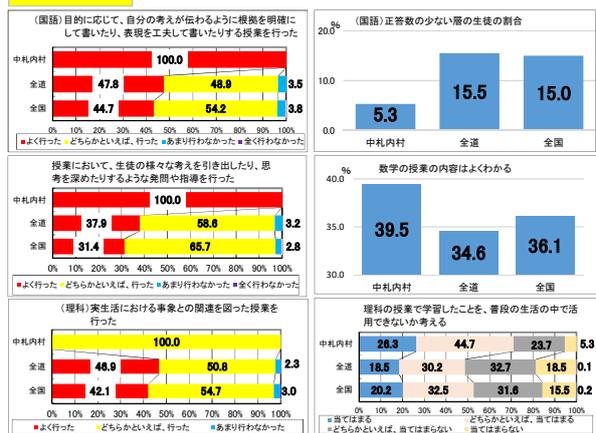


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体物を操作するなど、数量や図形について実感や図形について理解を伴った学習の工夫を行ったことにより、問題の解き方がわからない時は、あらかじめ色々な方法を考えると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「図形」「変化の関係」「データの活用」の領域において全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察するなどの指導を工夫したことにより、理科の授業の内容がよく分かったと回答した児童の割合が全国の割合を上回るとともに、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、正答率の少ない生徒の割合が全国の割合を下回るとともに、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、数学の授業がよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、全ての領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の学習において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、全ての領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【中札内村の学力向上策】

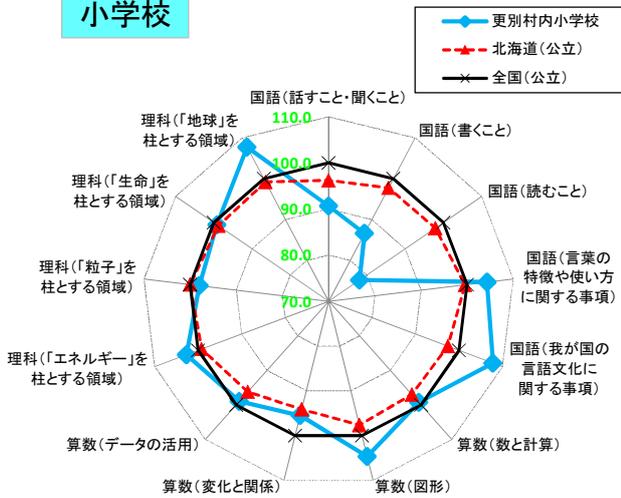
- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 1人1台端末やデジタル教材を効果的に活用した基礎・基本の徹底及び加配教員による習熟度別・TT指導による個に応じた指導の充実
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

■更別村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:25人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

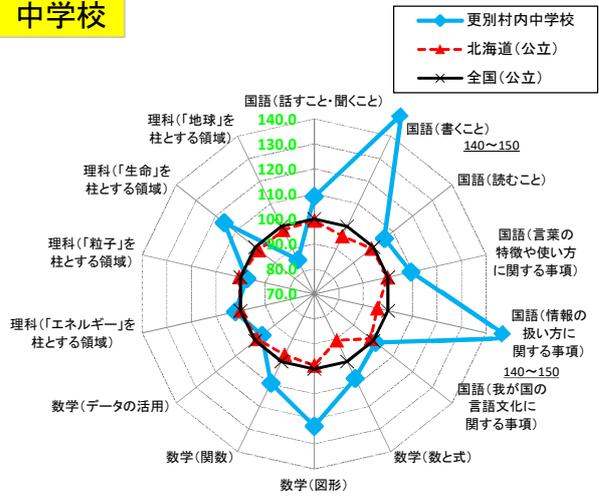
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

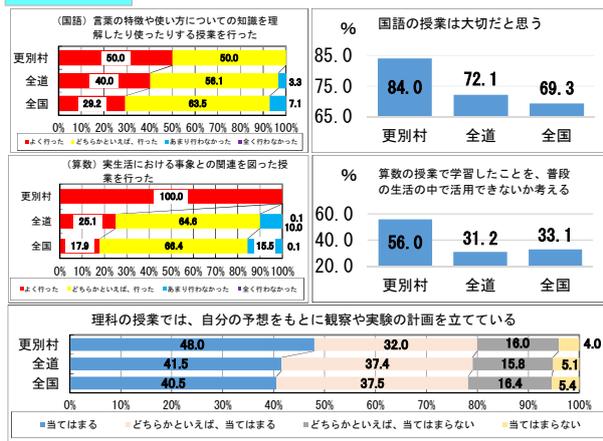


中学校

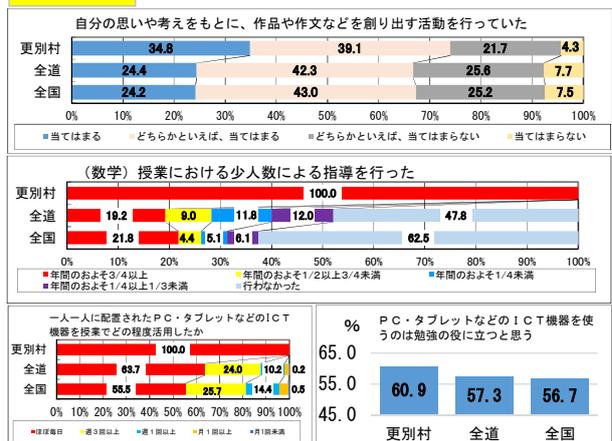


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行い、漢字や語彙など知識・技能の習得を着実に積み重ねたことにより、国語の授業は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「知識・技能」の観点において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うなど授業改善を進めたことから、学習したことを、普段の生活で活用できなにか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「図形」の領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を図ったことにより、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「エネルギー」「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において身に付けた言語能力を、各教科の言語活動において運用したことにより、自分の思いや考えをもとに作品や作文を創り出す活動を行っていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、各教科における記述式の正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、少人数指導を行い、生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、個に応じた学習指導を重ね、知識・技能の定着及び運用を図ったことにより、「データの活用」の領域以外の領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

各教科の授業において、ICTを積極的に活用し、学力低層層への基礎的、基本的な学力定着に向けた継続的な取組を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに全教科において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

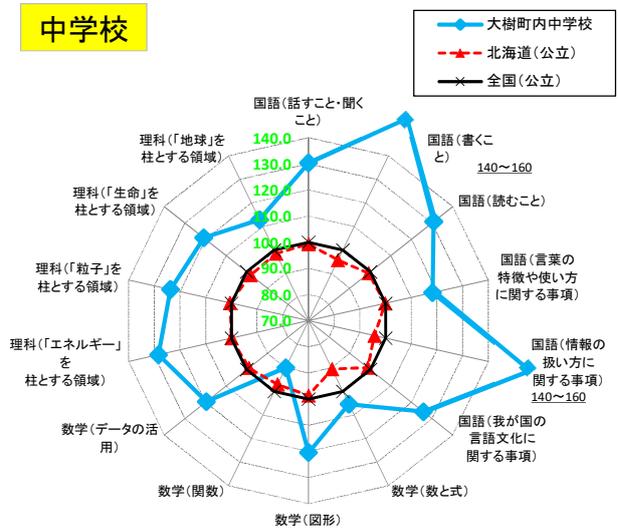
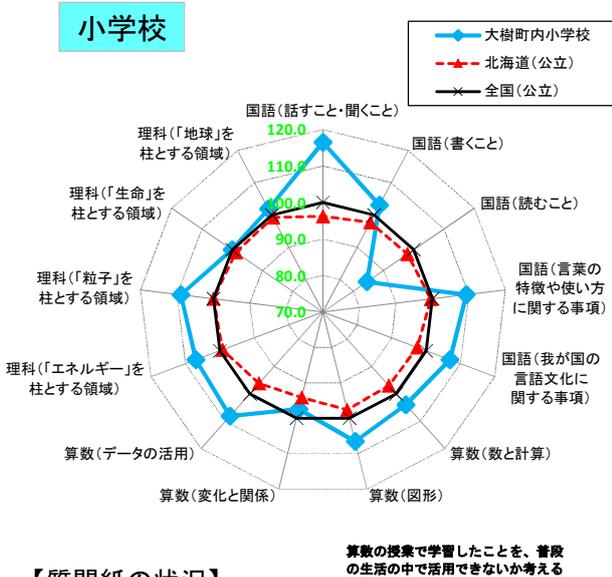
【更別村の学力向上策】

- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 1人1台端末やデジタル教材を効果的に活用した基礎・基本の徹底及び長期休業中における小・中学生対象の学習会の実施
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

■大樹町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:48人）（中学校数:1校、生徒数:40人）

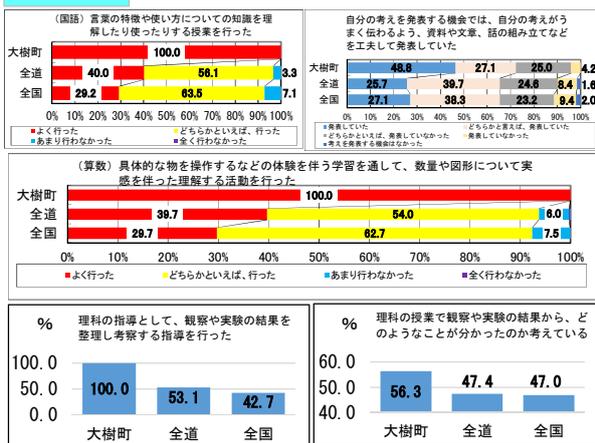
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

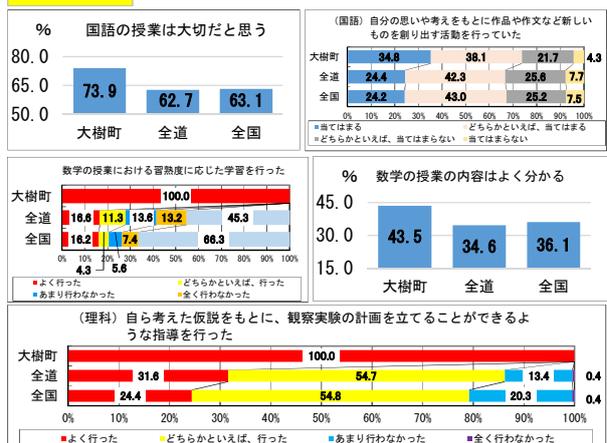


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったり、自分の考えを発表する際、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫するなどの言語活動を充実させ知識及び技能の活用を図る授業を行ったことにより、「読むこと」の領域以外の領域・事項において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験的な活動を通して児童の思考を深める授業の工夫を行ったことにより、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域において、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察するなど、学びを深めるための授業の工夫を図ったことにより、理科の授業で観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、全ての領域において、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、言語活動を意識した指導が積み重ねられ、実感を持った学習を推進したことにより、国語の授業は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を大きく上回ったと考えられる。

数学の授業において、習熟度に応じた学習を行い、生徒の学習状況を丁寧に把握するなど、個に応じた指導を継続したことにより、「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「関数」の領域以外の領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察実験の計画を立てるなど、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を図ったことにより、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

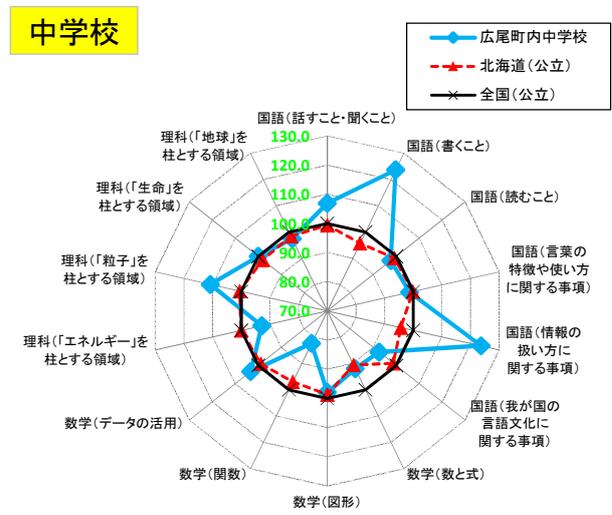
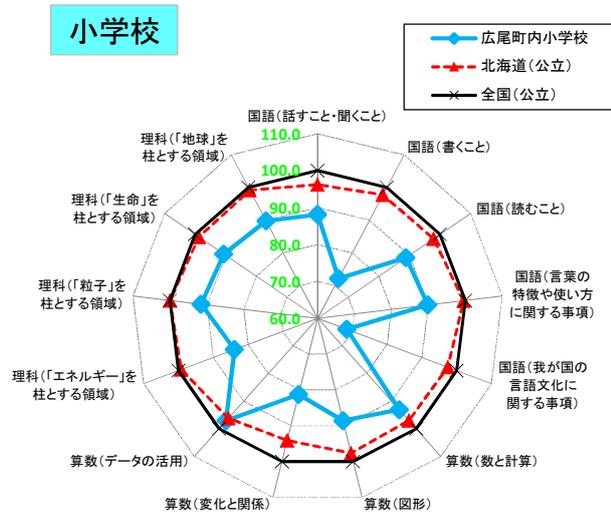
【大樹町の学力向上策】

- ◎ 小学校国語科の「読むこと」領域における、指導事項の系統性を見据え、言語活動の充実を図った授業改善
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小・中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童・生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための1人1台端末の効果的な活用

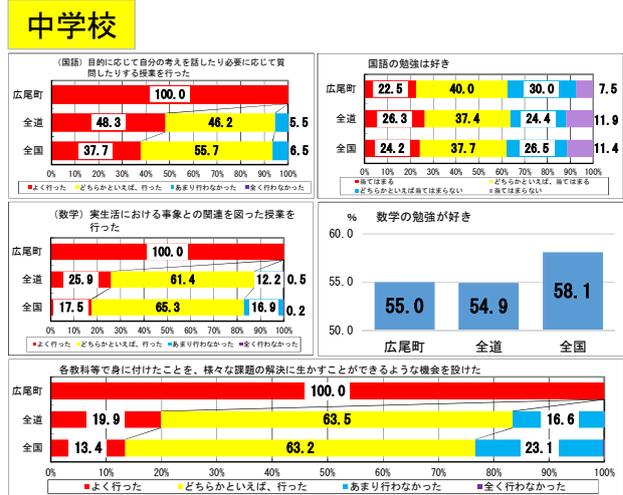
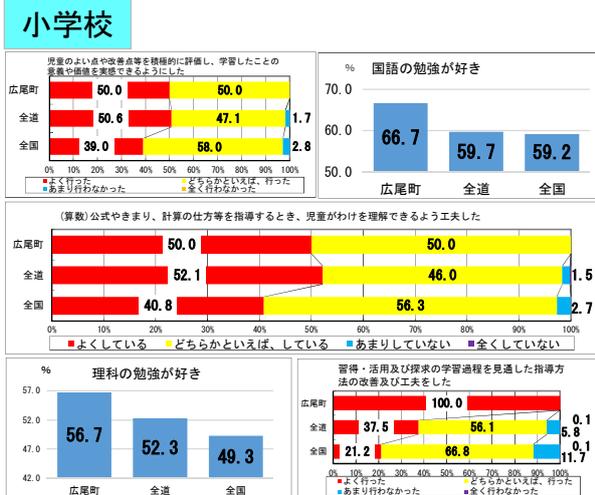
■広尾町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:30人）（中学校数:1校、生徒数:40人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、児童のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強が好きと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、「数と計算」「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「生命」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと肯定的な回答をした生徒の割合が全国の割合を上回るとともに、「話すこと」「書くこと」の領域と「情報の扱いに関する事項」において全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強が好きと肯定的な回答をした生徒の割合が、全道の割合を上回るとともに、「データの活用」の領域において、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けことにより、「粒子」「生命」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【広尾町の学力向上策】

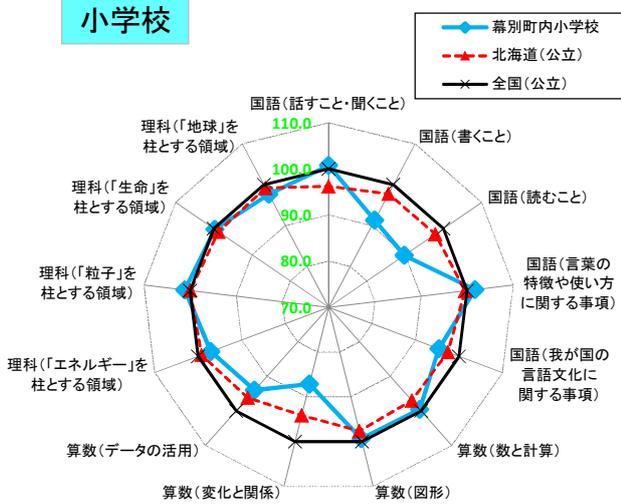
- ◎ 学校力向上に関する総合実践事業を活用した授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した学習指導の充実
- ◎ 小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成

■ 幕別町内の状況及び学力向上策 (小学校数: 8校、児童数: 230人) (中学校数: 5校、生徒数: 207人)

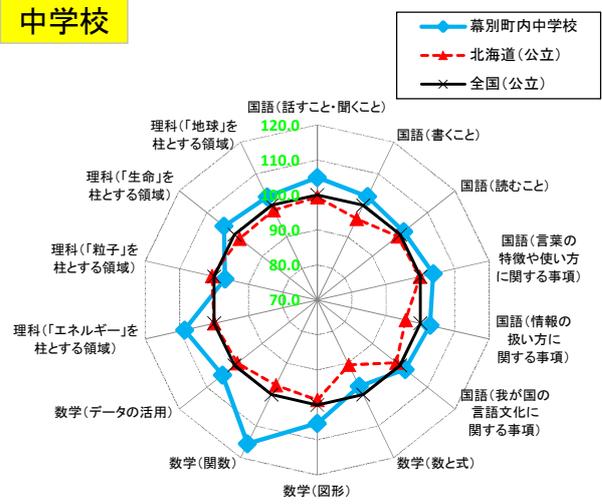
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

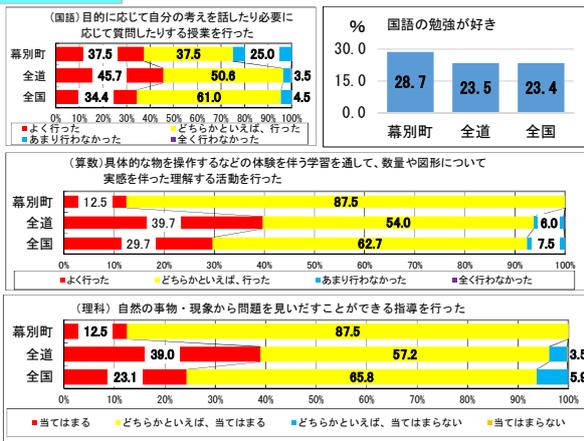


中学校

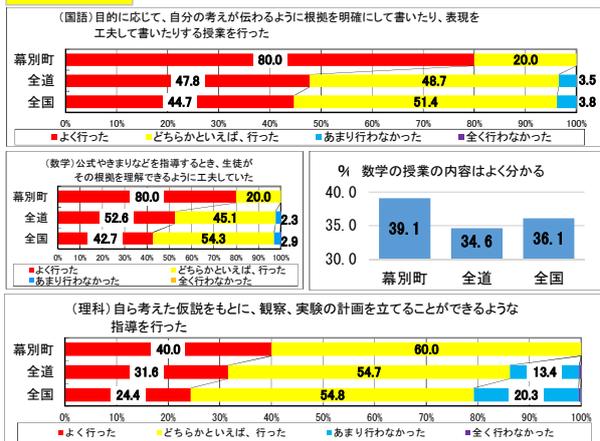


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解ができるよう工夫を重ねたことにより、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができるよう工夫を積み重ねたことにより、「知識・技能」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的意識と相手意識を明確にした言語活動を設定し、明確な根拠や表現の工夫など適切な指導を積み重ねたことにより、全領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりを指導する際に、生徒がその根拠を理解できるような工夫を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒が全国及び全道を上回るとともに、「数と式」以外の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、生徒が自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような工夫を重ねたことにより、「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【幕別町の学力向上策】

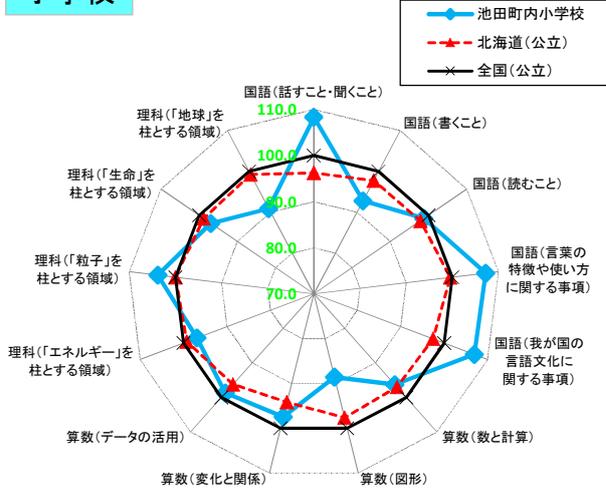
- ◎ 中学校で成果があった取組を小・中学校の全教職員で共有するとともに、小・中学校における検証改善サイクルの確立
- ◎ 小・中学校による授業参観の継続や9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした合同授業改善研修会の開催
- ◎ 児童生徒自身が、1人1台端末を活用して家庭学習を行えるようにするための指導や授業との関連、家庭との連携の推進
- ◎ 社会教育と連携することによる地域人材を効果的に活用した放課後学習サポートの実施

■池田町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:30人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

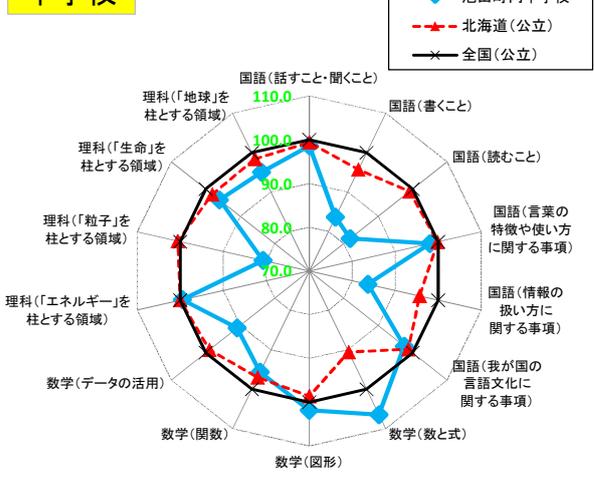
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

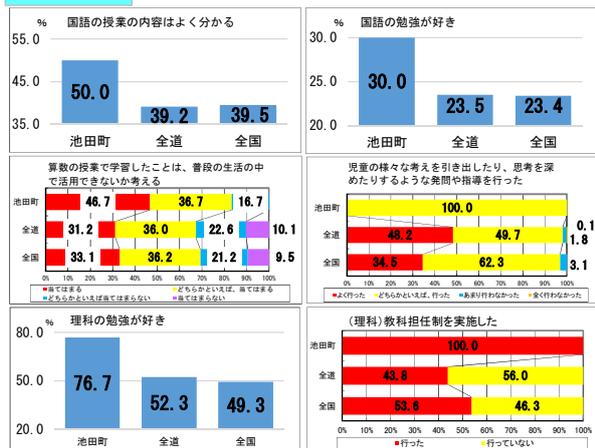


中学校

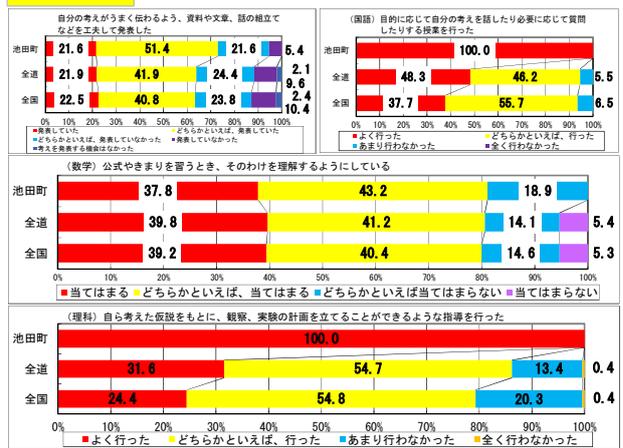


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強が好き、国語の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「書くこと」「読むこと」以外の領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えるという児童の割合が全道及び全国の割合を上回るとともに、「変化と関係」「データの活用」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、教科担任による実生活における現象と関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全道及び全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域と「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫したことにより、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているという肯定的に回答した生徒の割合が全道及び全国の割合を上回るとともに、「数と式」「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、「エネルギー」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

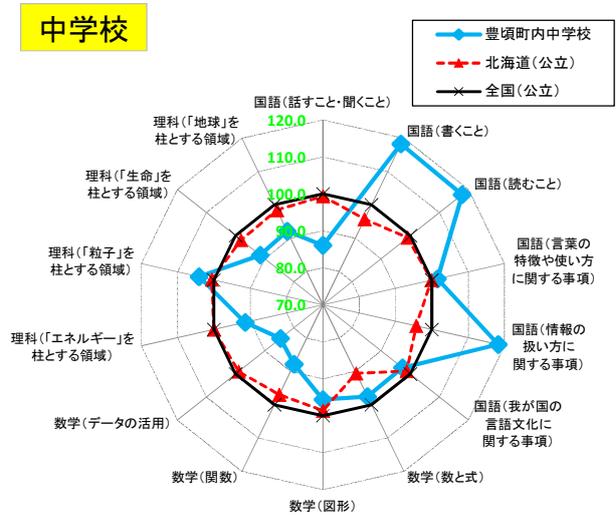
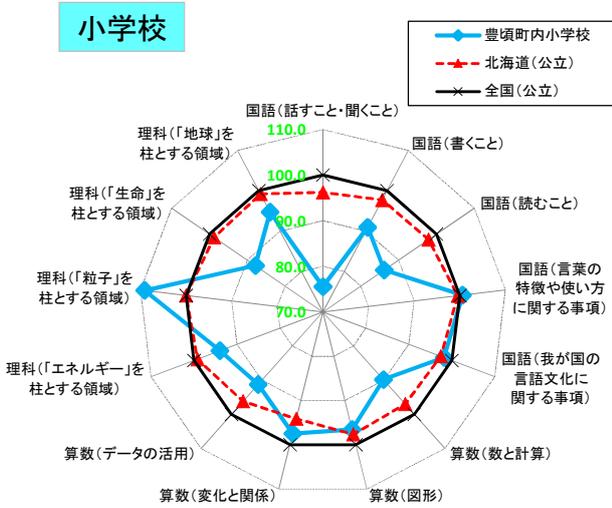
【池田町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づく児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 小学校における少人数学級による指導及び中学校における習熟度別指導等の個に応じた指導の充実
- ◎ 各教科等におけるICTを効果的に活用した指導による児童生徒の学習意欲の向上に向けた取組の推進

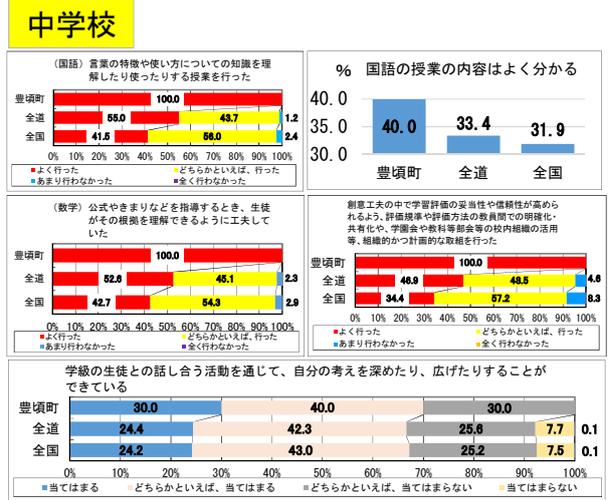
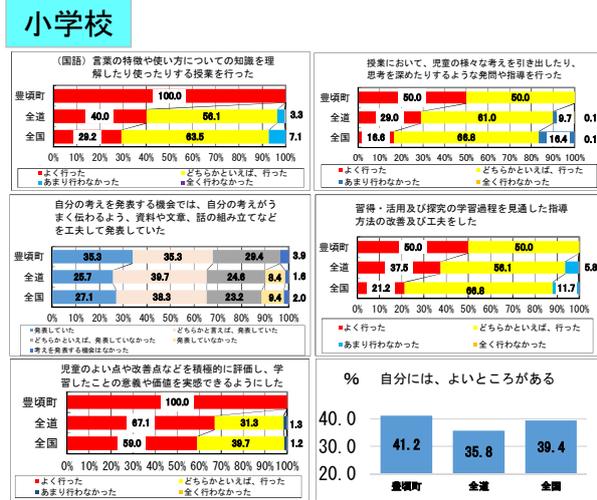
■ 豊頃町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：17人）（中学校数：1校、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行い、漢字や語彙など知識・技能の習得を着実に積み重ねたことにより、「知識・技能」の観点で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

各小学校において、児童の思考を深める発問の工夫など、指導方法の改善に取り組んだことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章の組立を工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を図ったことにより、「粒子」を柱とする領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、適切に評価する取組を組織的・継続的に行ったことにより、自分にはよいところがあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする取組を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かることと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、根拠を理解できるよう丁寧な学習指導を重ね、知識・技能の定着を図ったことにより、「数と式」の領域において全道の平均正答率を上回るとともに「図形」「関数」の領域において全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

学校において、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化等、組織的かつ計画的な取組を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ったことにより、「学級の生徒との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【豊頃町の学力向上策】

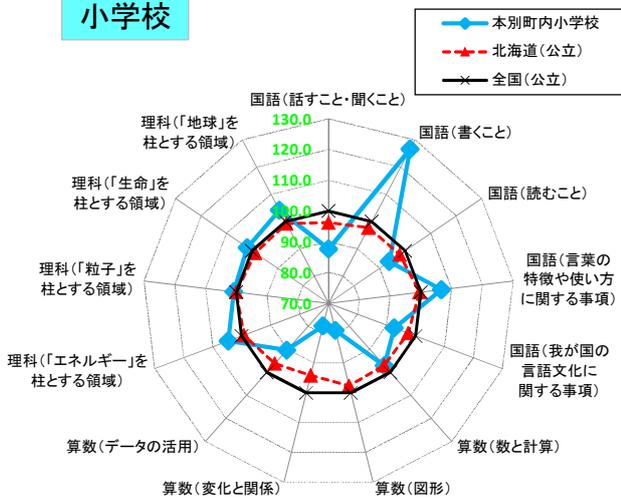
- ◎ 小学校国語科における、主体的・対話的で深い学びに向けた、指導事項の系統性を見据えた授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童・生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■本別町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:44人）（中学校数:2校、生徒数:42人）

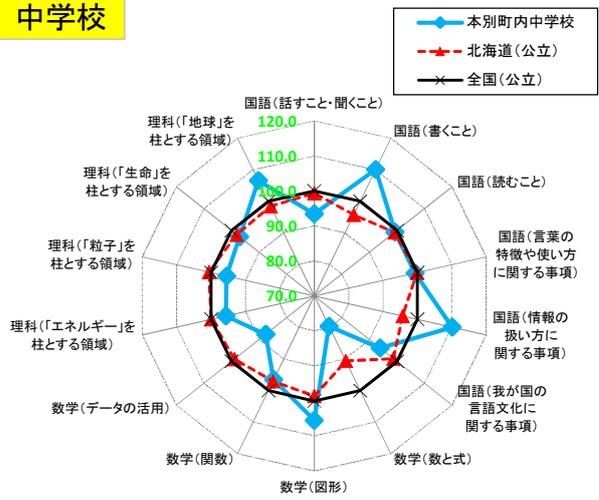
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

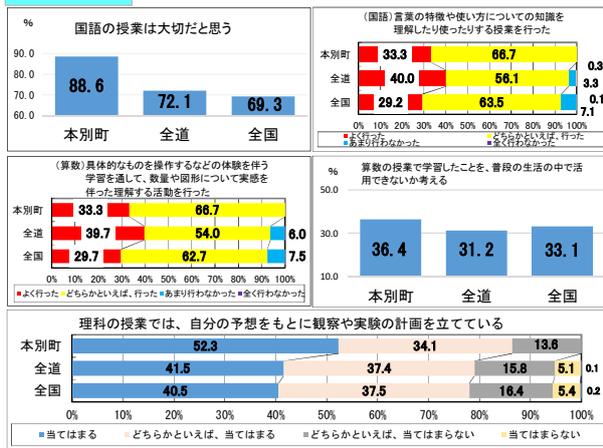


中学校

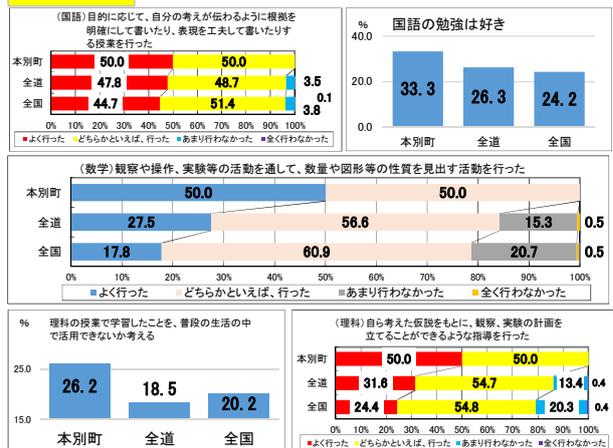


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方について、身に付けた知識を活用する授業を行ったことにより、国語の授業は大切だと思うと肯定的な回答をした児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「書くこと」の領域において全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体物を操作するなど、数量や図形について実感を伴う学習活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「数と計算」の領域において、全道の平均正答率と同程度になったと考えられる。

理科の授業において、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる学習活動を工夫したことにより、理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した児童の割合が全道及び全国の割合を上回るとともに、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、「書くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」において、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見出す活動を工夫したことにより、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てる指導を工夫したことにより、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「地球」を柱とする領域において全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

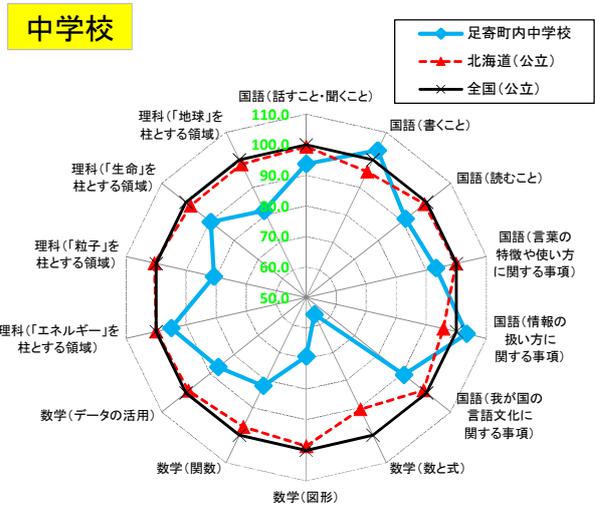
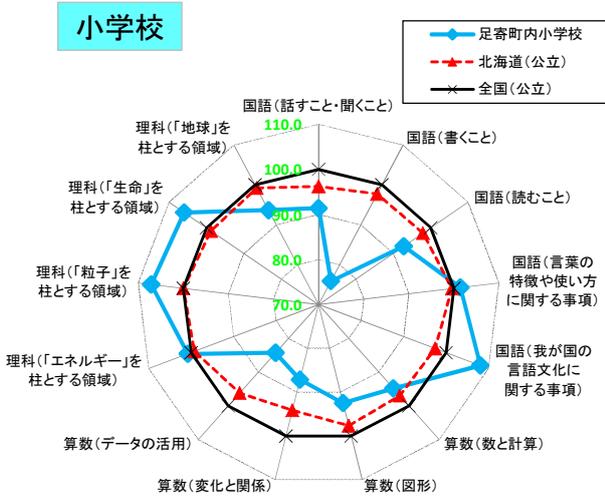
【本別町の学力向上策】

- ◎ 町内学力向上プロジェクトによる算数・数学を中心とした授業改善の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への乗り入れ授業及び教科担任制の実施など小中連携の取組の推進
- ◎ 家庭における学習習慣の確立及び小・中学校の連携した取組の推進

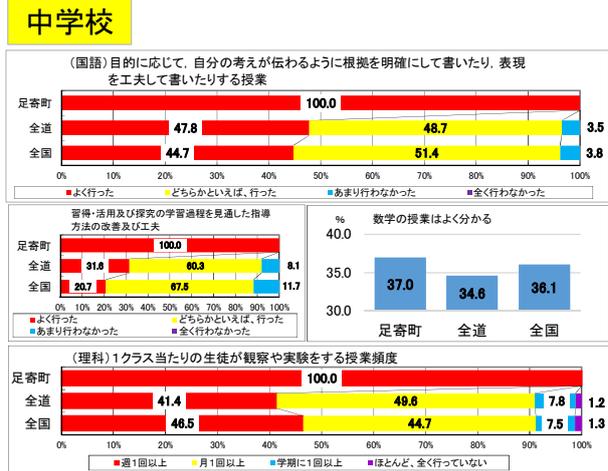
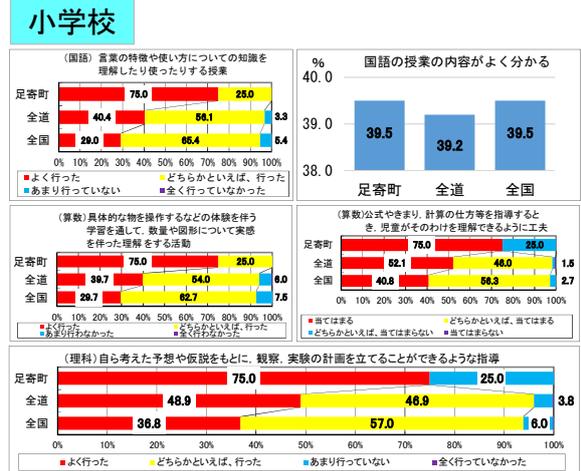
■足寄町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:54人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
<p>国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答する児童の割合が全国と同等になるとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を位置付けるとともに、児童が計算の仕方等のわけを理解できるように工夫する授業を行うことにより、「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。</p> <p>理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、「地球」を柱とする領域以外の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>

中学校
<p>国語の授業において、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>数学の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。</p> <p>理科の授業において、週に1回以上、生徒が観察や実験をする授業を行い、生徒の実感の伴う理解を促したことにより、「エネルギー」「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。</p>

【足寄町の学力向上策】

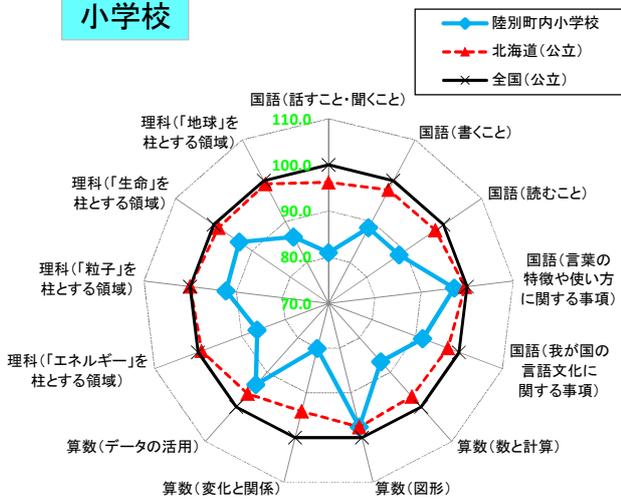
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学習アプリによる読解力向上を図る取組等、学校課題の改善に向けた1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 町の支援員等を活用した習熟度別・少人数指導による個に応じた指導の充実

■陸別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:14人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

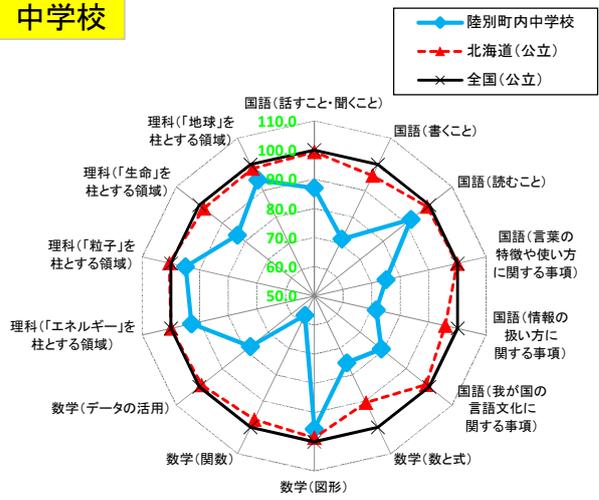
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

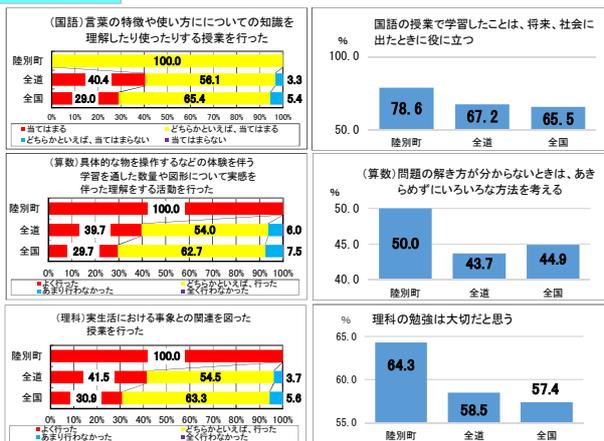


中学校

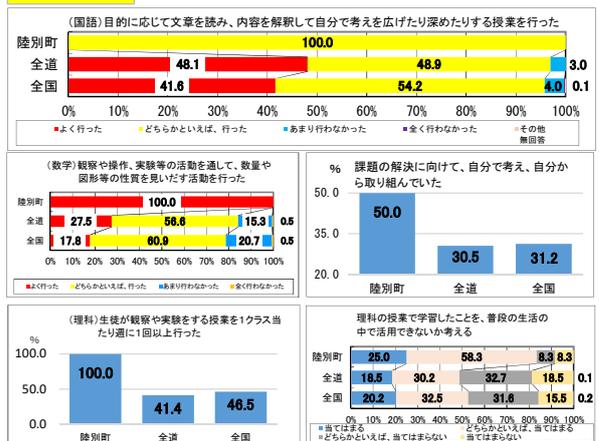


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行い、漢字や語彙など知識・技能の習得を着実に積み重ねたことにより、国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「知識及び技能」の観点で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国の割合を上回るとともに、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国の割合を上回るとともに、「地球」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回る設問が多く見られたと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分で考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、「読むこと」の領域において最も全国及び全道の平均正答率に近づいたと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「図形」の領域において全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

理科の授業において、生徒が観察や実験をする授業を多く行い、実体験を伴う理解を深めたことにより、理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えるという設問に回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「地球」「粒子」を柱とする領域において全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

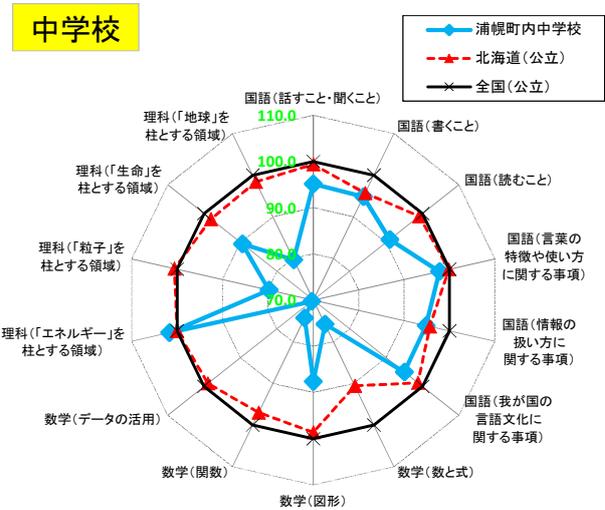
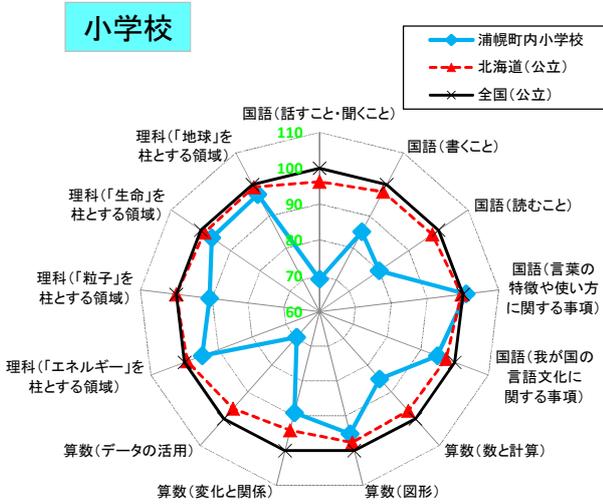
【陸別町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育を推進し、小・中学校の分析成果を共有した検証サイクルを確立
- ◎ 小・中学校合同による研修会や、日常的な相互授業参観、乗り入れ授業の実施
- ◎ 各教科等における1人1台端末を活用した個別最適な学びの実現に向けた取組の充実

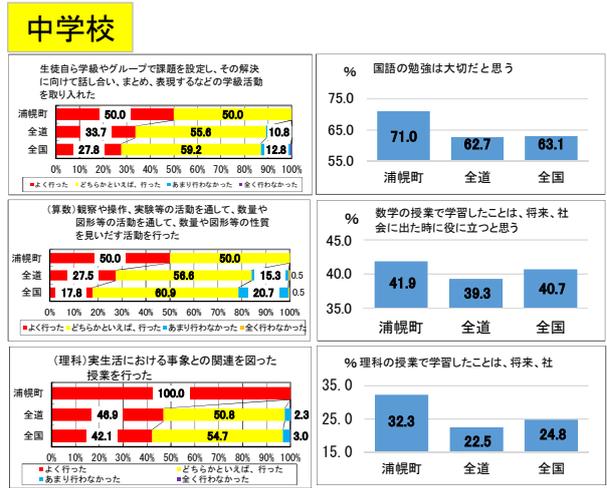
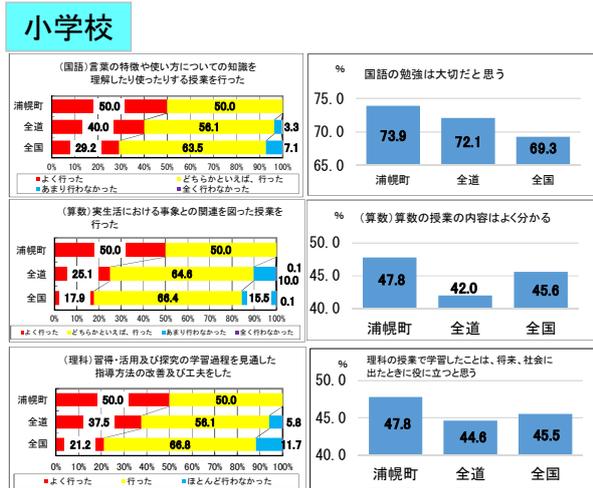
■浦幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:23人）（中学校数:2校、生徒数:34人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする活動を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道平均を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道の平均を上回ったと考えられる。

理科の授業において、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、「知識・技能」で全国の平均正答率を上回るとともに、理科の授業で学習したことは将来役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現などの学級活動を取り入れたことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道の平均を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」で全国及び全道の平均を上回った設問があったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、「図形」で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったことと「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国平均を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【浦幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析及び課題を明確にした数値目標の設定による検証改善サイクルの確立
- ◎ 思考力・判断力・表現力等を高めるための小学校における言語活動の充実や中学校における課題解決的な授業の実施
- ◎ 小・中学校及び子ども園等合同の研修会や中学校教員による乗り入れ授業等の実施
- ◎ 小中一貫コミュニティ・スクールの取組における学習ルールの統一及び家庭学習の取組の推進